

經濟哲学

浦上博遠

1997 年度版

目次

第 1 章 経済学の危機	7
1.1 経済学の現状	7
1.1.1 経済学の最前線	7
1.2 経済学の危機	8
第 I 部 20 世紀の科学哲学論争：「科学」的知識とは、何か。	11
第 2 章 演繹主義と帰納主義：知識の合理性と成長（発見）	13
2.1 演繹法	13
2.1.1 定義	13
2.1.2 R. Descartes(1596-1650)	13
2.1.3 Descartes の演繹的（推論的）方法	13
2.1.4 演繹法への批判	13
2.2 帰納法	14
2.2.1 定義	14
2.2.2 F. Bacon(1561-1626)	14
2.2.3 帰納的方法	14
2.2.4 帰納的方法への批判	14
2.3 方法論上の基本的な問題	15
第 3 章 反証主義：ポパー (K. Popper 1902-1994) の科学哲学	17
3.1 「帰納の問題」の解決	17
3.2 境界設定規準	17
3.3 「科学的発見の論理」	17
3.4 批判的合理主義	17
3.5 方法論的個人主義	17
3.6 方法論的規則	18
第 4 章 科学革命：クーン (T. Kuhn 1922 -) の科学哲学	19
4.1 パラダイム (Paradigm)	19
4.1.1 定義：(原義；語形変化系列)	19
4.1.2 共役不可能性	19
4.2 通常科学 (normal science)	19

4.3	変化の課程	19
4.4	異常科学 (extraordinary science)	20
4.5	革命 (知識の非連続性)	20
4.6	科学の社会学 (心理学) 的性質	20
4.7	「パラダイム」の言い換え	20
第 5 章	MSRP : ラカトス (I.. Lakatos 1922 - 74) の科学哲学	21
5.1	MSRP への途	21
5.1.1	デュエムークワイン (Duhem - Quine) 命題のもつ意味	21
5.1.2	ドグマ主義に対する反対の立場	21